（様式第５号）

会　議　録

１　会　議　名　　北九州市アドバイザー意見交換会

２　議　　題　　・世界や日本から見た北九州市のポテンシャル
　　・その可能性を引き出すためのアクション　　等

３　開催日時　　令和５年７月１３日（木）１３時００分　～　１４時００分

４　開催場所　　ザ・キャピトルホテル東急　２階「桜・橘」
　　（東京都千代田区永田町２－１０－３）

５　出席者氏名　　別紙「北九州市アドバイザー意見交換会 出席者名簿」のとおり
　　（・北九州市アドバイザー　１０名
　　・北九州市側　４名（ほか事務局数名））

６　発言内容　　下記のとおり
　（要旨）

７　会議経過　　13:00～ 市長より挨拶・市政説明(約５分)
　　13:05～ 各ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰより北九州市に対する感想・ｺﾒﾝﾄ(約 50 分)
　　13:55～ 市長よりお礼(約５分)

８　そ　の　他　　当日は YouTube でのオンライン配信を実施

９　問合せ先　　企画調整局企画政策部企画課　一徳、伊東
　　電話番号　０９３－５８２－２９６５

発言内容（要旨）

武内市長　挨拶・市政説明

（挨拶）

・日本や世界で活躍されている皆さんが、北九州市のために一肌脱ごうと思ってくださったことに、心から御礼を申し上げたい。

・北九州市は面白いまちで、いろんなポテンシャルがあって何でも揃っているが、そのポテンシャルが開花しきれてない。皆さんの知見も賜りながら開花させていきたいので、ぜひ力を貸していただきたい。

（市政説明）

・北九州市は、ものづくりの歴史がある、地理的にもいい所にある、24 時間 365 日の空港もある、災害は少ない、水の安定供給ができる、祭りも多い。また非常に人の繋がりや熱量が高いまちだと思っている。

・最近は、特に水素や洋上風力など脱炭素の部分で取組を進めている。

・他方で、高齢化や人口減少は政令市で一番高い。

・産業化、近代化を引っ張り、公害を経験し、環境先進都市になってという流れがある中で、どうやって北九州市のアイデンティティーを作っていくのか、自信を取り戻していくのかが、今一番課題だと思っている。

・令和５年度予算案のキーワードとして３つ掲げた。

１つ目はメガリージョン。北九州市だけで頑張るのではなくて、グレーター北部九州圏という捉え方で、そこに人や物、お金が流れていくようにしたい。

２つ目は未来産業。北九州市は、これから一歩先の価値観を体現するようなまちにしていきたい。今回の予算で、宇宙産業、半導体産業、グリーン産業に力を入れていこうと提起した。

・３つ目はバックアップ力。北九州市は、過去 100 年間で震度４以上の地震が３回しか起きておらず、非常に災害に強い。そういう意味で、世界と戦っていく上での日本を支えるバックアップ機能を持っていくというアプローチも大切にしていきたい。

・皆さんが持たれている北九州市の印象やポテンシャル、ここがボトルネックになっているとか、こういう方向、こういうアクションがあるんじゃないかということを、今日は自由にご議論いただければと思っている。

隈　研吾　氏

・北九州市は、世界のまちづくり、世界を俯瞰した目線においても非常に可能性がある場所だと思っている。１つはインダストリー。昔の工業化が、ある種ノスタルジックなものとしてかっこよく見え、その工業化で残したものを悪いものではなく、新しい歴史的遺産として捉えて、それをまちの再活性化に利用するのが、世界の新しいアーバンデザインのトレンドとなっており、北九州にはそのネタがたくさん

ある。
・もう１つは多中心。北九州は幾つかの中心があって、それぞれが非常にキャラクターを持っていて面白い。
・北九州は、インダストリーがあって多中心だが、ウォーカブルの視点が今までは欠けていたと感じる。歩いていて楽しいまちは、これからの都市において非常に重要な要素。北九州にも歩いて楽しい道はあるが、それをこれからどういうふうにして生かしていくかだと思う。
・山の中にある小倉織の伝統工芸の工房についても、多中心の一つの場所として生かしていけるのではないかと感じた。
・インダストリーのものが環境都市に大きく化けるのは、世界のアーバンデザインの新しい流れ。今まで環境に負荷を与えていたところを逆転して、環境にプラスになるというふうなことを仕掛けるとインパクトが非常に大きい。

佐々木　紀彦　氏

・北九州の特徴で良いなと思うのは、アニマルスピリッツ（いわばワイルドさ）みたいなところ。東京にいるインテリの人達はみんなスマートで頭が良いが、力強さはあまり感じない。そういうスピリットが、今ビジネス界も含めて求められている。
・広報でのポイントは３つ。
・１つ目は、グレーター北部九州圏ということで、北九州という点だけではなく、例えば福岡市とか熊本市とか、他のところとコラボレーションしながら PR していくことが一番大事だ。
・２つ目は、北九州の強みであるロボット、グリーンに特化して、日本で一番進んでいる都市であることをアピールしていくと良い。
・３つ目に、広報において大事なのは個人の顔が見えること。武内市長だけではなくて、起業家とか経営者の方々とか、いろんな方々の顔をどんどん出していくと、そこから北九州のイメージが上昇していくと思う。最後はロバート秋山さんに出ていただくのが良いのではないか。

山口　周　氏

・先月ヨーロッパを回ってきたが、サステナビリティがまちの大きなテーマになっている。ウォーカブルも、結局は、二酸化炭素を出さずに移動できるという点がポイントだ。例えばアムステルダム、コペンハーゲンは、通勤する人のうちの自転車の比率が４割で、非常に環境負荷の低いまちが出来ている。
・こういう変化を押し進めている背景として、コロナによるリモートワークの常態化がある。仕事のある場所と住む場所が物理的に一緒でなくても良い世の中になった。東京は、今年は流入超過になっているが、入ってきているのは若い人、出ていっているのは 30 代以上の知的専門職が多い。オピニオンリーダーで美意識の高い彼らが集まる場所がこれから発展することになる。この先、こういう人たちをど

このまちが取っていくかが都市の競争になる。

・北九州のポテンシャルは２つある。一つはアジアからすごく近いということ。もうもう一つは、文化・産業・風俗の多様性。これから先、海外の人材の取り込みも大きな課題になるが、この二つは大きなアドバンテージになると思う。

・一方で課題だと思うのは、都市としてのブランドイメージが希薄なところ。これからのまちは「役に立つ」だけを目指しても難しい。世界中でスマートシティのプロジェクトは失敗が続いている。「役に立つ」だけでなく、暮らす人、訪れる人にとっての意味的価値、つまり「意味がある」ことが重要だ。これから先、どのような「意味的な価値」を内外に向けて作っていくのかが、大きな課題になってくると思う。

宮田　裕章　氏

・ポイントを２つ。１つ目はウェルビーイング。今ヘルスケアがウェルビーイングという所も含めて、新しい時代に入ってきているので、ここを強みにしていくと良い。

・日本の子供達の精神的な健康は、先進国においても非常に低い位置にある。身体測定は熱心にやっているが、心の健康もしっかりサポートしていった方が良い。

・新しい産業があるだけではなくて、そこに来ると本当に生きやすいとか、定住化、観光化だけではない、ワーケーションも含めた働きやすさが大事。

・北九州は高齢化率が非常に高い政令都市で、その課題そのものが日本や世界全体の課題になっていくということなので、ここに新しいテクノロジーを加えていくとよい。

・介護と聞くと、排泄、食事、入浴ばっかりになってしまうが、本当はそういうことではなくて、例えば亡くなる前に自分が過ごしてきた畑に行きたい、そしてそこに行くだけで涙が出るっていうようなウェルビーイング、その人生が豊かだったと感じられるような、そういう介護は日本にない。北九州でこういったものを突き詰められるといい。

・２つめはサステナビリティ。やっぱり工業だけではなくて、未来の持続可能性とどう繋がるかということ。観光は短期的に日本の産業で確実に伸びる、インバウンドは自動車産業を超えて 2030 年には 15 兆円になるという中で、北九州はまだまだそこを発揮しきれてない。でも、いろいろな要素が散らばっているのでそこにサステナビリティの要素を加えてみるとか。例えば風力発電だったり、あるいは太陽光発電、それは単に、その太陽光の施設じゃなくて、観光を呼ぶような美しいデザインだったり、自然との調和ができるものができれば。

・北九州は、八幡製鉄所を含めたいろいろな産業革命のまちである、そういうものが今も息づくまち、新しい未来を繋ぎながら、そこに生きる人たちの未来であり観光というような、多くの人たちが訪れて可能性を感じるような、そういうまちづくりをしていくと良いのではないかと思う。

辻野　晃一郎　氏

・北九州市はどうしても衰退都市というイメージがある。まず何で北九州市が衰退して、人口がどんどん流出していくような状況になったのかということをしっかり分析することが大事。教育機関の数が少ない、進学先や就職先が限られてるなど色々な理由があると思う。

・２つ目に、隣の福岡市が、逆になぜ発展して人口が増える状況になったのか、その発展の理由も分析する。うまく第三次産業を立ち上げてきた、市が中心になって天神などのインフラ整備をしたこともあるだろう。

・すでに皆さんは改善策は分かっていると思うので、あとはもうやるだけだと思う。

・武内市長になってから、こういう会を含めて、色々と顔が見える北九州市になりつつあるのではないかと思う。

・北九州のことだけを考えるのではなくて、例えば北九州空港をもっと拡充して、九州国際空港化し、福岡空港と連携するなど。
あとは反対側の下関とリンクして関門経済圏としてアプローチするなど。北九州市だけでなんとかしようとするのではなく、グレーター（広域）で捉えてやっていくのが良いと思う。

・福岡との連携を考えるとき、福岡はどちらかというと第三次産業的な部分で発展しているとすれば、やはり北九州市は工業の中心、第二次産業の中心で、日本製鉄をはじめ、安川電機や TOTO など、歴史的にも名だたる企業があるので、やはり工業の強みを生かした企業誘致や人材育成、あるいは教育機関、高専などを充実させていき、お互いに福岡と強み弱みをうまく補完し合えるような発展の方向というのはあると思う。

・北九州からは、最初から世界に目を向けていた起業家を輩出していると思う。代表的なのは出光佐三氏や TOTO。そういう最初から世界を見ていた人達の薫陶を生かすことは大事。

・今、世界でも一番活力があるのはアジア太平洋地域。北九州は、グレーター九州みたいな感じでいうと、そのアジア太平洋地域の活力を吸収する最前線にいるので、東京や大阪の方を見るのではなくて、逆に西側を見るとよい。

・日本全体が今、衰退国家になってきているので、北九州市が起爆剤になって、その背中を見て日本全体がそれに付いてくるみたいなリーダー的な役割を果たしていくと良いのではないか。

・それとレジリエンス。非常に地震も少ない、災害が少ないということで、バックアップ都市として、データセンターや物流拠点の誘致など、そういうことを考えていくと良いのかなと思う。

鎌田　恭幸　氏

・地域によって、元々持っているアセットを活かせる地域とそうでない地域がある。北九州は、物流産業やアカデミック、文化、観光を含めて、様々なアセットを持っ

ているが、それを伸ばせるかどうかの分岐点は２つあると思っている。

・１つは本気さ。特に中途半端な経済圏を持っている地域ほど、なかなかグロースしづらいと感じている。衰退しているがまだ余力があるところが一番変化が難しくて、その背景に、（これは企業も同じだが）、変わりたくない心理が働くので、そこを粘り強く変えていく本気さ、行政と民間企業と地域の人たちが何か危機感を共有したときに変化が生まれてくる。逆に、どこかが中途半端に腰を引いていたらうまくいかない。

・もう１つは、思考の枠を地域に留めないというのは大事で、うまくいかないケースは、自分たちの地域だけで何とかしようとか、自分たちの地域を何とかしようとか、そういった地域志向は非常に可能性を閉じてしまう。

・自分たちの地域の様々な取組を通じて、日本はもとより世界にどう貢献していくのかというのが大事な視点だと思う。
例えば人口 100 万人、稼ぐまちにするというのはあくまで手段であって、それを通じてどう世界に貢献していくのかという、そういう視座ができたときに、いろんな若者が集ってくると思う。

・やることは、そういうメンタリティーを持っている人をいかに増やすかということ。私の分野で言うと、そういう起業家をどんどん呼び込んでいく、もしくは学生起業家を含め、そういう人材を輩出する仕組みをどう作るのかというのが非常に大事なポイントになってくると思う。

・色々な地域でも起業家育成をやっているが、お金を出したが、その後グロースさせることができないなどがある。したがって、伴走支援のクオリティの高さが非常に重要になってくる。

・幸い、北九州市には名門企業もあれば、環境系のスタートアップも集まってきており、そういう力を結集しながら、情報通信の分野に強い九州工業大学を中心に、その辺のシーズをどう活かせるのか、そこから新しい世界に貢献する産業をどう生むのか、その辺が１つの突破口になるのだろうと思う。

鎌田　實　氏

・北九州市は健康寿命が短い、少子高齢化、人口減少という問題を抱えているが、発想を変える必要がある。

・北九州市は心臓病対策、脳卒中対策、癌対策、糖尿病教室、メタボ健診等、非常にしっかりやられている。その上、病院の高次機能医療は充実している。なのに健康寿命は全然伸びていない。政令指定都市の中でも非常に低いという問題を抱えている。

・糖尿病があったり高血圧があったりしても、95 歳ぐらいまで生きて１ヶ月に１回でも、日帰り温泉に行けたり、食堂で好きなもの食べたりすることができるような健康づくりを考える必要がある。疾病対策をやりながら、フレイル対策などを精力的に行う必要がある。

・それから、北九州市は病院が充実しているだけではなくて福祉施設なども充実しているまち。しかし、医療と介護、医療と健康づくりなどのつながりはまだ不十分。
・例えば、幸せは１番は健康、２番は人間関係が良いかどうか、３番は自己決定ができているか、４番、５番は所得と学歴。健康と人間関係と自己決定は結構、幸せという意味ではとても大事。
そういう健康づくり運動を武内市長が率先してやってくれれば魅力的なまちになるはず。幸せと健康は密接につながっている。
・医療施設、福祉施設も充実しているので、もう一つは在宅ケアをこれからもうちょっと充実させると選択の幅が広がって自己決定ができやすくなる。家で最後まで居たいとかが選べるような北九州市になってくると、病気を多少したとしても、病気がありながらも、あるいは介護を受けながらも、自分が幸せっていうのが北九州市でいえるようなまちになっていけるのではないかと思う。ネットワーク化やデジタルを使ったり AI を使ったり、ロボットとかで北九州市は、そういう方向で最先端をきっと行く。だからこそ、反対に人間関係とか情というものも大事にしていくことがすごく大事。
・ネットワーキングという人間系の繋がりの大事さを、北九州市で形にしていけば、最先端のまちにプラス、元々あった人流が多くて情が深い北九州市がさらに磨きがかかっていくと期待している。

林　英恵　氏

・北九州市の強みは、時代に合わせて変化し続けられる自治体としての可能性を秘めたまちであること。
産業構造がどんどん変わる中で、過去の栄光から衰退していく都市もあれば、そこから復興できるというのもあるが、北九州はそうした面で代表的な都市になれると思う。
・健康づくりの観点で歴史を見ていくと、産業と健康課題は密接な関係がある。例えばコレラと産業革命が密接に影響していたり、今で言うとコロナで人々の生活やビジネススタイルが変わったりした。やはりその産業やビジネスが変わると、それに伴い健康にも影響がある可能性があるので、そこをきちんと押さえていけると良いのではないか。
・北九州市の方とお話すると、ソーシャルキャピタル、その界隈の在り方が非常に強いまちだなということを感じるので、そこをうまく生かしていけると良いのではないか。
・可能性を引き出すためのアクションとして３つ。
・１つ目は、とにかくエビデンスとデータの活用をして欲しい。今、公衆衛生の分野では、人々がより体を動かすためにどうしたらよいか、野菜をたくさん食べるためには何が必要かなど、自治体が抱える健康課題に関しては、多くのエビデンスが蓄積されつつあるが、実際に実践の方に落ちてないというのが一番大きな問題。

きちんとエビデンスを検証した上で、データを取りながら実証し、それを評価してまわしていくということで、限られたリソースが最大限活用できるようにしてもらいたいと思う。

・２つ目は、徹底した健康格差の対策を行ってもらいたい。北九州市の健康寿命は男性は全国の値よりも下回ってしまっているので、まずはそこを引き上げるということを目標にしたら良いのではないか。女性に関しては、より延ばせるようにすると良い。

・３つ目は格差対策にも関連して、縦割り行政だけではなかなか実現できないことを、適切に取り組んで欲しい。健康格差を含めた公衆衛生の問題は、健康局だけではなく、市の部局連携により横断的な政策を行うことが重要。ソーシャルマーケティング等を活用しながら、エビデンスに基づく効果的な施策を打ち出してほしい。

木下　斉　氏

・まちづくりの視点から、政令市の中で最も低い地価上昇率というのは極めてチャンスだと思う。福岡市はすでに評価も高く、地価も上がっている。一方で北九州市はまだ土地の値段が低いということは、これから様々な都市計画、多様な開発の余地があるということ。

・北九州市における都市政策では３つの提案をしたい。

・１つ目は、低層高密度、歩行空間を中心とした市街地形成だ。今世界中の都市で、歩行空間を中心とした街路形成に注目が集まり、世界的な大都市であるニューヨーク、ロンドン、パリでも歩行空間化を積極的に推進している。それは、自動車がアクセスできる土地の値段が上がる時代から、自動車がなくとも生活できる、魅力的なゾーンに位置する土地の評価が高まる時代にシフトしている。結果、歩行空間エリアには不動産上昇率が高く、各国が自動車中心の市街地からの転換を図っている。国内でも姫路の歩行空間を優先する駅前整備も高く評価され、大阪市でもなんば駅周辺など歩行空間化に向けた社会実験が進められている。北九州市の主要駅前空間の歩行空間化と、路面店舗と道路などの運用を一体化することで、競争力のある市街地形成を図ることが可能と考える。

・２つ目は教育レベルの刷新。日本は政治的に非常に安定していて、その中でも北九州。今、人口減少で土地が余っていることがマイナス課題だと言われているが、逆に言うとまとまった土地活用が可能ということ。現在、日本の地方に多様なボーディングスクールやインターナショナルスクールが誕生し、注目を集めている。軽井沢町では教育機関の増加によって、多数の移住者を集める結果にも繋がっている。北九州では日本の工業化を推進するため、民間によっていち早く設立された九州工業大学などの系譜がある。まとまった土地を活用し、今後の日本、アジアに必要な新たな魅力ある新時代の教育機関をファミリー向け住宅整備もセットで行うことが有効である。さらに北九州の立地の優位性を活かして東アジア一体からの移住定住者を集めることを検討すべきである。

・３つ目は、北九州空港については、24 時間空港かつ、海外対応も可能な機能を大いに活用すべきである。キャパシティの限界や深夜離発着制限のある福岡空港を補完することによってメガリージョン（福岡ー北九州ー下関）の発展に寄与すると共に、増加するアジア各国におけるプライベートジェットの受け入れ、駐機などもより積極的に推進すべきである。
・歩行空間と低層高密度化、教育による選ばれるまち、そしてプライベートジェットまでも網羅する利便性の高い空港インフラを組み合わせて、東アジア各国を超広域都市圏として見立てて、北九州市の都市経営を考える時にきている。選ばれる都市は緑地率が高いなど良好な生活空間が提供され、より高度な新たな時代に対応した教育が行われ、アクセスの利便性の高い都市である。
・また、これら新たな時代に合わせた政策運営のためには、行政人材への人材育成への投資が不可欠である。行政人材は大学学部までの教育までが中心で、その後は OJT での研修に留まることが多いが、それでは変化の早い現代では新規の政策立案、民間との連携などを行うことは不可能である。今後は社会人大学院、社会人スクール、先駆的な実績を上げる地方民間企業での実務経験などを積み、新たな知見を獲得し、政策に反映するための投資を行うべきである。他都市において効果的な公民連携事業を推進している自治体は人材育成への投資が旺盛である。

朝比奈　一郎　氏

・まず、地域活性化のトレンドを２つ考えてみたい。１つは、地域活性化の流れ。①70～80 年代、②90～00 年代、③2010 年代～と、トレンドが変わってきている。
・①の時代は、過疎と過密の同時解消という言葉が流行っていた。要は、東京からどう人や資源を引きはがして地域に移すか。工場等移転法・列島改造論などが典型。
・それが②の時代になり、日本全体が伸びて、バブルにも突入して、①の問題は無かったかのようになり、正しい手続き、すなわちデュープロセスの時代になった。具体的には、情報公開や地方分権をして、地域の住民主体の行政にして行こうという流れ。
・それ自体は悪いことではないが、そうこうしているうちに、③の時期となり、地域の人口が減り、若者が流出し、中心市街地が寂れる中で、どうやって食べていくの、となった。①の時代に逆戻り。ただ、①の時代は、東京に余裕があったが、今は東京の少子高齢化・人口減少が深刻になりつつある局面で、各地が自分で解決策を考えることが必要となった。政府は、RESAS や DMO などで、データや制度の支援はするが、各地の戦略は、各地の人たちが考えてください、というスタンスになっている。
・もう 1 個は残念なトレンド。昔は経産省の知事が多く、お金はない代わりに割と知恵を使うようなことが多かったが、最近はすごく国交省の知事が増えてきたということ。国交省の首長だと補助金がつく。本当は、各地の食い扶持作りを人の知恵で色々やっていかなければいけないのに、今日本で起きているのは、箇所付けを

してくれる国交省の出身知事や市長を各地が増やして、国に頼ろうとする姿勢が多く見受けられること。

・それを踏まえた上で、北九州のポテンシャルとしては、いくつかの大事な鍵がある。1 つは環境やサステナビリティというところ。北九州はそのためのインフラや工業が非常にある。10 年前は横浜か北九州かというくらい、北九州ではインフラの輸出が非常に進んでいて、外にどんどん出していくっていうイメージが強かったのに、その実績がだいぶ落ちている印象。旧国交省的な補助金をつけてもらうという姿勢ではなく、新国交省的なやり方で、環境やサステナブルのための新しいインフラ、ごみ処理や下水の中からどういうふうにヘルスケアを考えていくかなど非常にいろんな技術が出ていて、国を超えた外交も非常に進んできているので、北九州市もそういったものをどんどん世界に出していくと良い。官民連携ができる人材が重要。そして、この観点からも、空港や港湾が整っているというメリットは大きい。

・首都機能のバックアップについて、これから国防は陸から海中心になってくるので、更に言えば、宇宙やサイバー空間にもなるので、その辺に着目してはどうか。特にインフラとして港湾・空港があるので、海自や海保など、そういった機能を首都機能移転として引っ張って来るのは一つの方向性かもしれない。

・神戸市は今年から職員採用のうち半分を中途採用としている（新卒を半分におさえる）。そういった官民連携ができるいい人材を集める流れが大事だと思う。中途採用の強化をしてはどうか。

武内市長　終わりの挨拶

・専門分野の違う視点だが、何となく像が一つで結ばれている感じもあって、非常に確信を得たところも多々あるし、新しい気づきもたくさんいただいた。

・北九州は近代化を引っ張って、工業化して公害になって、環境先進都市になって今は人口減少が進んでと、いろんなドラマチックなまちの人生を辿ってきたが、やっぱり一歩先の価値観を体現するようなまちを実行していきたい、今はそう思っている。

・それがサステナブルなのか、人をそれぞれエンパワーすることなのか、アルトルイズムみたいな利他的に人がつながる世界観なのか、そういったものをしっかり持って、戦術戦略として、今日いただいた様々なパーツをうまく使ってポテンシャルを生かしていくような形でやっていきたい。

・今日はキックオフ。今後もいろんな形でご意見をいただきたい。